

What?

Why?



所長 山本の

ワズリレーインタビュー

第17回 ひめくりの代表 菊池美帆さんに聞きました!

東北の手仕事から紙ものまで、幅広くセレクト。企画展もユニークな川沿いのお店。

Q まずは、創業のきっかけを教えてください。

菊池 オープンは2010年11月19日の大安ですが、1970年生まれなので自分の中で5年刻みで「0」と「5」がつく年に意を決するタイミングがあったんです。2010年が40歳になる年で、それまでは印刷会社で営業をずっとやっていたのですが、定年までの時間と自分で何かチャレンジする時間を想像した時、えいと踏み出すには今年なのかなと年初めに思いました。昔から雑貨屋と喫茶店と花屋が一緒になった場所があったらいいなと夢みたくに思っていて、仕事の外注先で「てくり」という本を作っていた「まちの編集室」のライターさんやデザイナーさんに「本の世界観を出せるような場所があったらどう思いますか?」と真剣に相談したのがお店のきっかけです。「てくり」は、よその印刷屋で刷っていたのですが、本の中の世界観がとても好きで読者の一人でした。その結果、まちの編集室がプロデュースに関わっている場所というイメージで応援して下さることになったんです。

Q その前から準備していたんですか?

菊池 2010年6月に会社を辞めて、2011年の春くらいにオープンしようと考えていたので、全然していませんでした。それまでの間に、いろんな工房を訪ねたりしてみようと考えていて、時間はあっても有給も取らずに辞めたのですが、8月末にこの場所をご紹介いただいて。急すぎて決めかねていたら、私が借りなきゃこっちで借りちゃうよ〜と知り合いの人たちが背中を押してくれて。ゆっくりする時間がなかったのが今でも残念ですが、そのタイミングじゃなかったらできなかつたらうなって思っています。

Q どんな商品を取り扱っていますか?

菊池 東北とゆかりのある作り手さんの手仕事の商品を扱っています。陶磁器、ガラス、南部鉄器、漆器、木工、ホームスパンなどの染織、紙ものや本などが常設として扱いがあります。不定期で企画展を催すのですが、それは逆に岩手であまり見る機会のない作家さんなど、ご縁のあった方にもお声がけをしています。いずれ、暮らしの中で使うものが中心です。

Q 商品はどこでやって見つけてくるんですか?

菊池 最初は、まちの編集室で作ったてくり別冊の「te no te」という本の中で紹介している作家さんの作品から始めました。当

「印刷会社の営業時代の経験が今につながっています。ハードでしたが、やりたいことは納得いくまでやりたいのは今も変わりません」と菊池さん。



時はまちの編集室の看板が大きくて、「編集室が経営しているお店」などと勘違いされることがありましたが、7年半が経つ中で徐々にトーンができてきたような気がします。「うちはこう」と決めてお店のブランドを作ろうとはしてなくて、単純に好きなものが周りにあったら幸せだな〜という気持ちでやっています。

Q 震災の時は大丈夫でしたか?

菊池 このあたりは地盤が固らしく、品物が壊れることはなかったです。お店自体はオープンしたばかりで皆に知られていなかったのではないので、がくんと売り上げが下がるということにはなりません。近くでお店をやっている先輩が普通に店を開けていることが自分たちにできることと言っているのをそうだなと思って、震災の2日後の13日から節電と時間短縮で営業を再開しました。

Q 他とは違うセールスポイントを教えてください。

菊池 常設があって、企画展もあって、内容の振り幅の広さですかね。本は、あまり本屋さんには並ばないようなものを置いたり、紙ものは全国に出しているメーカーの仕入れ品は少なく、イラストレーターさんやデザイナーさんが個人で作っているものの割合が大きいですね。個人を応援している感じがですね。

Q お店の名前由来を教えてください。

菊池 ひめくりカレンダーをめくった時の新しいことが始まる感覚と

Monthly
Person



shop+space ひめくり
代表

菊池 美帆 (きくち・みほ)

盛岡の印刷会社に17年間勤める。東京支店時代、ステーションリーメーカーなどの印刷に携った後、40歳の時に独立。2010年11月に手仕事の品物を中心に扱うセレクトショップを中津川沿いに開業。常設以外にも、展示会を企画している。



岩手の手仕事が並ぶ常設スペースの前で。この後、所長は「プリン同盟」さんのカブト虫バッジをゲットして帰りました。



コーヒー焙煎 風光舎 代表 箱崎 光良 さんからのご紹介



同じように、この場所も日々新しい出会いがあるようにという願いが由来の一つです。私がかつと印刷会社で紙をめくるということに関わっていたので、まちの編集室のメンバーが提案してくれて。それに、たまたま家で飼っている猫の名前が「姫」と「栗」で、偶然だったのですが、迷いなく決めました。悩んだのは、ひらがなにするか、漢字を入れるか、小文字のローマ字でかわいい感じにするか。でも、誰にとってもわかりやすいのがいいなと思ってひらがなにしました。

Q 仕入れはどうされていますか？

菊池 作家さんから個々にです。作家さんが持って来てくれることもあれば、自分が訪ねて選ぶこともあります。企画展はテーマをお伝えして、作家さんが考えてくれるので、何が届くかは開けてみないとわからない楽しみもあります。印刷会社の頃は納期管理にシビアでしたが、作家さんの場合は一人で全工程をやっている大変さがわかるので、キツキツにならないようにしています。うちの店だけと付き合っているわけじゃないですね。

Q お客さんはどのエリアから来ますか？

菊池 盛岡市内や岩手県内はもちろん、秋田、青森、仙台など、展示会の芳名帳を見ると隣県のお客様も多い印象です。手仕事のものが好きな方が SNS など知って来てくださることも多いです。

Q このお仕事の魅力はどこに感じていますか？

菊池 自分が好きだなと思ったものをいいなと思ってくれる方がいることが見えることですね。ここに来ると好きなものがあると言ってくださったり、共感してくださったりすると、とても嬉しいですね。

Q お店のトーンを言葉にすると？

菊池 強いて言うなら、存在の仕方や印象が重たすぎず、軽すぎず。自分のお家で使う時に馴染むもの。作家さんの違う一面を見せられる場として、企画展でメリハリをつけるようにしています。

Q 自分なりの勉強や情報収集の方法はありますか？

菊池 展示会やイベントに行き、作家さんと直接会ってお話をするようにしています。人気があるからとか、インターネットで見ただけの付き合いはしないですね。ぱっとつながってぱっと離れる関係性は好きではないので。新しいものをどんどん入れるの

も一つですが、私はゆっくりじっくり長く付き合っていけたらと思っています。

Q 今後の目標はありますか？

菊池 規模拡大などの考えはなくて、今の状態で自分も楽しみながら、新しい企画展などをできたらいいなと思います。「こういうの、できたらいいな」を少しずつ形にしていきたいです。

Q 今後、決まっている企画展はありますか？

菊池 8月10日から21日まで、岩手在住の陶磁器作家の大沼道行さんと紙版画の坂本千明さんの二人展「うつわと猫」を開催します。大沼さんの陶磁器の展示と坂本さんには大沼さんの器が入った版画を作っていただきました。それと坂本さんの著書「退屈をあげる」の原画展も同時開催します。9月は「再生」をテーマに木工とガラス、古布の3人展をやります。9月下旬には、雫石町で南部鉄器を作っている高橋大益さんの個展を予定しています。

Q 仕事をする上で大切にしていることは？

菊池 自分の気持ちや体力が安定していないと、楽しくお店ができないので、頑張りすぎないことですかね。若い頃に比べると体力的に無理はできないので、睡眠時間をちゃんと確保しながら、いろんな意味でバランスを取ってゆったりやっています。

Q 最後に好きなタイプの芸能人を教えてください！

菊池 この手の質問で一番長く挙げていたのは福山雅治さんですね。顔が好きです。それと、ラジオから伝わってくる人柄が人間味があって健全だと思ってますね。

◎ 本日はお忙しいところありがとうございました。

インタビュー当日は、ごじん刺しと木版画、磁器の「初夏をいろどる三人展」が開催中でした♪

shop+space ひめくり

盛岡市紺屋町4-8 ☎ 019-681-7475
定休日*木曜、第1・第3水曜
営業時間*10:30~18:30
<http://himekuri-morioka.com>

